

部落差別との戦い ～ 渋染一揆 ～

(特別活動)

対象：中学生以上

1 題材名 「部落差別との戦い」(6時間扱い)

2 資料名 「別段御触書」(資料)

3 題材設定の理由

中学生の時期は、自分中心の考えから、徐々に他者への意識を広げて考えていくことができるようになる時期である。その中で自分の行動を振り返りつつ、他者との良好な関係を保とうという意識が強くなっていく。また、集団の規範意識が芽生える一方、他者の目を気にするあまり、正しいことも行動に移せなくなっていく場合がある。

学級には係活動や授業、提出物などの任された仕事や自分自身のやるべきことをやろうとする生徒が多く、自分自身の姿を振り返り、反省し、次に生かそうとする気持ちを持っている。一方、小集団での生活が多くなり、周りへの関心や働きかけが薄く、困っている友だちがいても声をかけられなかったり、思っている行動に移せなかったりする生徒がいる。

「渋染一揆」では差別が当たり前の社会にあっても、その不当性と闘う人々がいることを知り、差別をなくしていく意欲を持たせるとともに、差別と闘った人々の思いや行動を知ること、正しいと思うことには勇気をもって行動することの大切さを育てたいと考え、本題材を設定した。

4 人権教育とのかかわり

○江戸時代末期の部落差別に対する基礎的理解や差別と闘った人々の社会に対する課題への理解を進める。(知識的側面)

○被差別部落の人々の生き方に対する尊敬や感謝の気持ちを持ち、共に差別と闘っていこうとする。(価値的・態度的側面)

○被差別部落の心情を共感的に受容し感じ取ることができる。(技能的側面)

5 題材のもつ価値

「渋染一揆」は、江戸時代末期に岡山藩で起こった出来事である。財政難に陥っていた岡山藩は農民に対し、1855年に俵約令を出した。しかし後の5か条の「別段御触書」は被差別部落の人々だけを対象としたものであった。この「別段御触書」を受け入れられないとした人々は寄り合いを重ね、最後に強訴に至ったのが渋染一揆である。この一揆は藩の差別政策に抵抗したものであり、差別撤廃を求めた人権獲得のための行動である。この資料は差別をなくそうとする人々の思いを考えることができる。また、差別をなくすために、行動することの大切さを感じることができる。

6 活動の展開(全6時間)

No	主題名	ね ら い	時	資 料
1	外国人への理解	人間は、人種や民族ごとに互いに異なる特色や生活習慣を持っていることに気づき、外国人を尊重していこうとする気持ちを持つ。	1	DVD 「ほんの少しの勇気から」
2	違いの違い	短文の内容を読み、「あっていい違い」「あってはならない違い」に分け、その根拠をはっきりさせる活動を通して、差別とはどういうことかを理解する。	1	別紙 ワークシート
3	被差別部落の身分差別の起こりと人々の暮らし	・江戸時代の身分制度と差別の起こり、墓石に刻まれた差別戒名の存在を知り、江戸時代の歴史的背景を考えながら、民衆と権力、宗教界がともに被差	2	あけぼの DVD 「誇りうる部落の

		別部落の人々を利用したことについて理解し、差別に対する怒りを持ち、差別をなくしていこうとする決意を持つ。 ・被差別部落の人々の生活について学び、社会における被差別部落の人々の役割の重要性や社会に貢献した姿を知るとともに、差別に負けないうましさや優しさ、賢さを学ぶ。		歴史
4	渋染一揆	渋染一揆が被差別身分の人々にとって人間の尊厳を守るための闘いであったことを理解し、一揆を起こした人々の差別に負けないうましさや優しさ、賢さを学ぶ。	1	儉約令、別段儉約令、嘆願書 (本時)
5	まとめ	学んできたことを振り返り、これからの自分のあり方についての考えを標語にすることで人権に対する意識を実践につなげていく。	1	

7 主眼（「人権教育の視点」を兼ねる）

藩が出した「別段御触書」に対して、提出した「嘆願書」が突き返された史実を知った生徒が、それをきっかけに人々が起こした一揆にいたるまでの思い考えることを通して、差別に立ち向かった人々の強い思いに共感することができる。

8 指導上の留意点

- ・「別段御触書」「嘆願書」「一揆」などの言葉はその都度、補足の説明をしていく。
- ・色の違う付箋を用意し、全員の付箋を学習カードに貼ることで、各自の意見を確認しながら話し合いが進められるようにする。

9 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	◇指導・助言 評価	時間	備考
導 入	1 前時の学習を振り返る。	・不満をそらすためにまた差別したのではないか。 ・「別段御触書」の内容は理不尽だった。 ・「別段御触書」は差別だ。	◇「別段御触書」を提示して、感想を問う。 ◇状況が想像できない生徒がいる場合は、自分たちの生活に置き換えて考えさせる。	7	資料1
	2 「別段御触書」に対し「嘆願書」を提出したが突き返されたことを知り、そのときの人々の思いを想像する。	・納得できないことを伝えるのはいいことだ。 ・お願いに行ったら、取り消してもらえるのだろうか。 ・突き返されたあと、どうしたのだろうか。 ・差別をされるのは嫌だからもう一度行った方がいい。 ・差別されるのは嫌だけど、どうにもならない。 ・どうしていいかわからないからみんなと相談する。	◇「嘆願書」を提示して、概要を説明する。 ◇「嘆願書」が突き返されたとき、自分だったらどうするかと問いかけ、意見を発表させる。 ◇一揆という手段をとったこと、当時の一揆は命がけだったことなど概要を説明する。		
処罰されることが分かっている、一揆を選んだ人々はどんな思いを持っていたのだろうか。					

展 開	4 一揆を起こそう と考えた人々の思 いを「一揆を起こ す立場」と「一揆 を起こしたくない 立場」の両方で考 える。	<ul style="list-style-type: none"> ・このまま何もしなければ差別はなくならな い。 ・みんなの思いが一つになれば実行できること もある。 ・聞いてもらえるか心配だけど差別されるのは 嫌だからあきらめない。 ・みんながいるからきっと願いを聞いてもらえ る。 ・処罰されるのは嫌だから一揆はしない方が いい。 	<p>◇「一揆を起こす立場」と「一 揆を起こしたくない立場」に 立って両者の思いを考えさ せ、付箋に書くように指示す る。</p> <p>◇様々な考えを持つ人がいた中 で、最後には一揆という方法 をとったのはなぜかを問い、 人々の思いが一つになってい ったことを想像させる。</p>	10	
	5 「一揆を起こし たくない立場」 「一揆を起こすか 迷っている。」と 考える人々が「一 揆を起こそう。」 と決断できるよう な言葉をグループ で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・行っても突き返されるから無駄だ。 ・一揆を起こした方がいいのか分からない。 ・行きたくない人には、励ますような言葉をかけよう。 ・差別をなくしたいという思いを伝えよう。 ・みんなで行った方が効果的だと思う。 ・大勢の人が、差別をなくしたいことをわか ってもらえるようにしたい。 ・無理やり連れていっても、みんなの思いは 一つにならない。 	<p>◇グループで自分の考えた「一 揆を起こす立場」と「一揆を 起こしたくない立場」の考え を発表させ、付箋を学習カー ドに貼っていく。</p> <p>◇それぞれの意見を見合い、 人々がまとまる言葉を考えさ せる。</p> <p>◇言葉を短冊に書かせ、黒板に 掲示する。</p>	18	
	6 一揆の結果を知 る。	<ul style="list-style-type: none"> ・嘆願書を受け取ってもらえてよかった。 ・別段御触書が取り下げられたのは、みんな が力を合わせたからだ。 ・とらえられた人たちも処刑されることはな かった。 	<p>◇資料を提示し、嘆願書を手渡 したこと、別段御触書が取り 下げられたこと、とらえられ た人々の赦免を要求し、釈放 されたことを伝える。</p>	5	
終 末	7 本時を振り返り まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・命がけで差別をなくそうと思った当時の人た ちはすごい。 ・みんなで行動したから別段御触書が取り消さ れた ・1度であきらめずに、また挑戦したことが良 かった。 ・一人では無理だと思うこともみんなと力を合 わせたら実現できるということが分かった。 ・もし周りで困っている人がいたら、一人では 勇気が出なくても、みんなで助けてあげた い。 	<p>◇学習カードに記入させる。</p> <p>◇感想発表。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>差別に立ち向かった人々の 思いに共感して感想を書い ている。</p> </div>	10	学 習 カ ー ド

【資料1】

べつ だん お ふれ がき
別 段 御 触 書 (1855年)

- 一、 着物は、無地の^{むじ}・^{しほぞめ}・^{あいぞめ}に^あ限る。
- 一、 雨の時は村内で^{げた}下駄をはいてもよい。ただし、百姓に出会ったときは、下駄を脱ぎ、おじぎをすること。他の村に行く時は、下駄をはいてはならない。
- 一、 年貢をきちんと納めている家の女は、そまつな^{あまがさ}雨傘をさすことを許す。

(5カ条あるが、以上の3条のみ)

【資料2】

たん がん しょ
嘆 願 書 (1856年) ^{ぼっすい} 抜粹

- 一、 自分たちは田畑を^{たがや}耕し、年貢を納めているのですから、百姓と差を付けられるのはおかしいです。
- 一、 このようなお触れを出されては、働く意欲を失い、田畑は^あ荒れて年貢を納められなくなってしまいます。
- 一、 なぜこのようなお触れを出されたのでしょうか。本当になげかわしいことです。どうかこれらの事をお考えいただき、今まで通りにお許しになってください。

【資料3】

いっき がいよう
一揆の概要

1856年6月13日の夜、八日市の吉井河原に被差別身分の人々が集まってきました。翌日の14日の朝早くには、千人以上もの人々にふくれあがりしました。集まった人々は、岡山藩の家老であった伊木氏の家を目指しました。死を覚悟し、生きては帰れないと考えていました。途中で村役人がじゃまをしましたが、それを突き破り伊木氏の軍勢と向かい合い、その後伊木軍の責任者と会います。そして、6月15日に嘆願書を手渡し、「別段御触書」を取り下げるよう努力することを約束させました。

8月1日に、別段御触書の取り下げを勝ち取りました。しかし、12名が牢屋に入れられ、6名は釈放されましたが、6名は病死してしまいました。

『部落差別との戦い～渋染一揆～』

1年 組 番氏名：

処罰されることが分かっている、強訴を選んだ人々はどんな思いをもっていたのだろう。

1. 当時の人々がどんな思いを持っていたのか「一揆を起こしたい立場」と「一揆を起こしたくない立場」の両方に立って考えてみよう。

ピンク色・・・「一揆を起こしたい立場」の思い

水色・・・「一揆を起こしたくない立場」の思い

2. 「一揆を起こしたくない立場」の人や「一揆を迷っている立場」の人が一揆を起こすことを決断できるような言葉をグループで相談して考えてみよう。

グループで考えた言葉

今日の授業の感想

.....

.....

.....

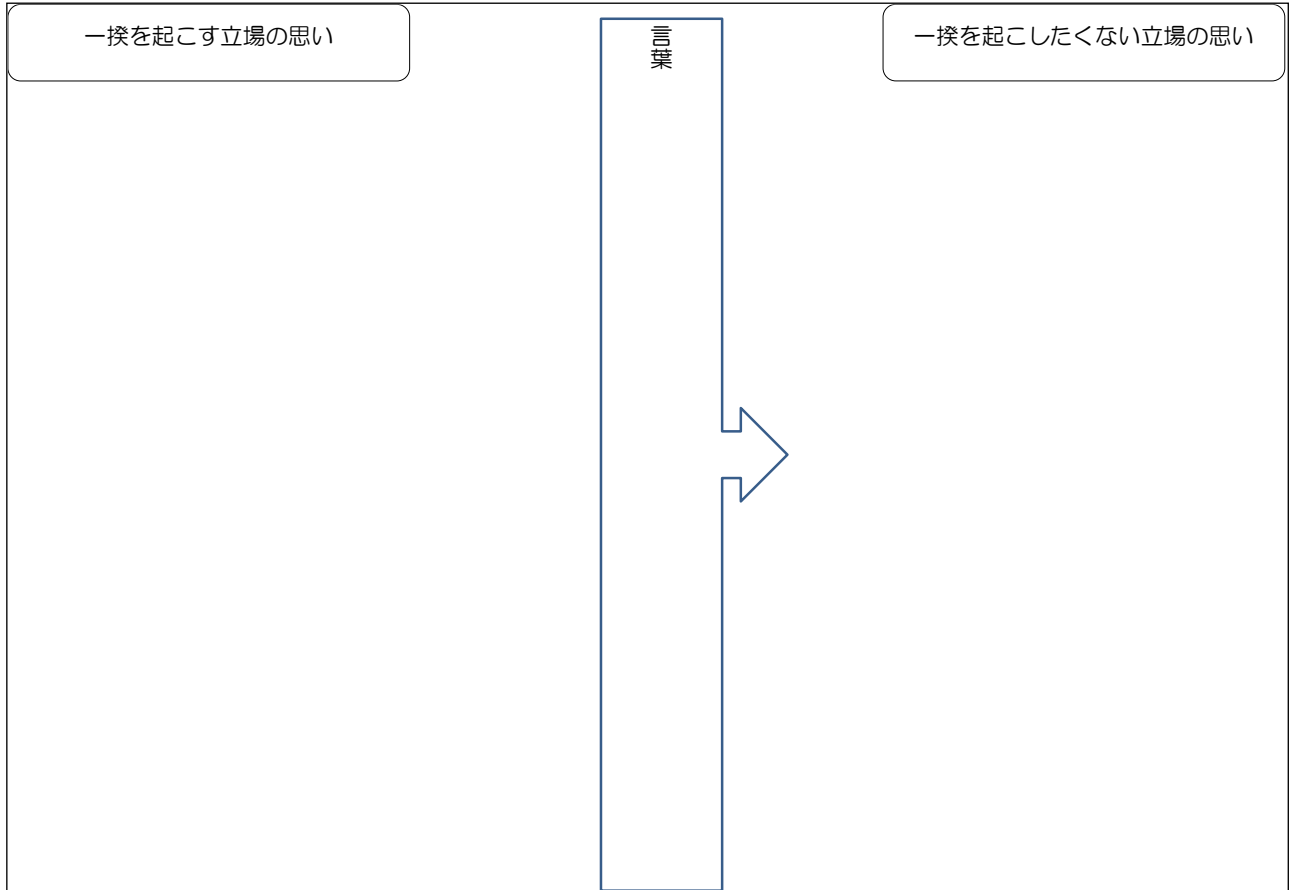
.....

.....

.....

.....

(グループ別学習カード A3)



1 学年の単元目標と展開

視点	視点の内容	生徒具体目標
1	人間を大切にできる心情・態度の育成	・境遇や文化の違いを理解し、人を大切にし、人に尽くす心を身につける。
2	友だちと連帯して問題を解決する態度の育成	・互いに支え合って、生きようとする態度を身につける。
3	物事に対する合理的な考え方の育成	・身近な生活の中に見られる差別や偏見を解消しようとする態度を身につける。
4	部落差別の正しい認識と、部落差別をなくす実践的態度の育成	・被差別部落の成立を理解し、部落差別の不当性に気づくとともに、治安維持や警備役を任務としてたくましく生きてきたことを知り、差別解消に取り組むことができる。

No	主題名	ね ら い	時	資 料
1	外国人への理解	人間は、人種や民族ごとに互いに異なる特色や生活習慣を持っていることに気づき、外国人を尊重していこうとする気持ちを持つ。	1	DVD 「ほんの少しの勇氣から」
2	違いの違い (授業参観)	短文の内容を読み、「あっていい違い」「あってはならない違い」に分け、その根拠をはっきりさせる活動を通して、差別とはどういうことかを理解する。	1	別紙 ワークシート
3 4	被差別部落の身分差別の起こりと人々の暮らし	・江戸時代の身分制度と差別の起こり、墓石に刻まれた差別戒名の存在を知り、江戸時代の歴史的背景を考えながら、民衆と権力、宗教界がともに被差別部落の人々を利用したことについて理解し、差別に対する怒りを持ち、差別をなくしていこうとする決意を持つ。 ・被差別部落の人々の生活について学び、社会における被差別部落の人々の役割の重要性や社会に貢献した姿を知るとともに、差別に負けないたくましさや優しさ、賢さを学ぶ。	2	あけぼの DVD 「誇りうる部落の歴史」
5	渋染一揆	渋染一揆が被差別身分の人々にとって人間の尊厳を守るための闘いであったことを理解し、一揆を起こした人々の差別に負けないたくましさや優しさ、賢さを学ぶ。	1	儉約令、別段儉約令、嘆願書
6	まとめ	学んできたことを振り返り、これからの自分のあり方についての考えを標語にすることで人権に対する意識を実践につなげていく。	1	

2 学年の単元目標と展開

視点	視点の内容	生徒具体目標
1	人間を大切にする心情・態度の育成	・自分の差別心を見つめ、差別された人の心の痛みを感じ取り、差別の問題を自己の生き方の課題とすることができる。
2	友だちと連帯して問題を解決する態度の育成	・差別問題の解決にとりくんだ人々の姿に触れ、自分たちも互いに支え合って差別をなくすために実践しようとする態度を身につけることができる。
3	物事に対する合理的な考え方の育成	・被差別部落の人々の生き方に学び、部落差別の実態を理解し、部落差別解消は、自分が関わる課題であることに気づくことができる
4	部落差別の正しい認識と、部落差別をなくす実践的態度の育成	・解放令以後の被差別部落の人々の歴史と、差別の現実から、水平社を創設し全ての人々の自由と平等と幸せを願って立ち上がった生き方に共感することができる。

No	主題名	ね ら い	時	資 料
1	人間の尊重、価値の尊重	権利の順位付けを通して、人が生きていく上での人権の大切さに気づくとともに人権の根拠となっている人間の尊厳、価値について理解を深める。	1	権利の熱気球ワークシート
2	胸を張って悩もう	思春期を迎え、子どもと大人の間に立ち、自分自身のことはわからない今の自分を受け止め、誰もが通る過程であることを理解し、自他共によりよく生きていこうとする大切さに気づく。	1	「胸を張って悩もう」 P P 学年集会
3	解放令 全国水平社の成立	解放令の影響や被差別部落の人々の生活の変化、農民や村役人の反応を知る。 水平社宣言、荊冠旗に込められた思いや願いを知ることを通して、被差別部落の人々が自らの力で差別をなくそうと団結し、水平社が誕生したことがわかる。	2	あけぼの
4	教育を受ける権利を求めて	被差別部落の子どもたちの教育を受ける権利を求めて行動した人々の生き方にふれ、信念を持って行動する大切さを感じる。		資料別紙 「おらあ、学校いきてえ」
5	まとめ	学んできたことを振り返り、これからの自分のあり方についての考えを標語にすることで人権に対する意識を実践につなげていく。	1	

3 学年の単元目標と展開

視点	視点の内容	生徒具体目標
1	人間を大切にする心情・態度の育成	・学校選択における偏見や差別を知り、自他をかけがえのない存在として受け止め、他人の痛みが分かって人権侵害を許さない取り組みができる。
2	友だちと連帯して問題を解決する態度の育成	・一人一人が考えなければならないこと、しなければならないことがわかり、差別解消に向けた見通しをもつことができる。
3	物事に対する合理的な考え方の育成	・部落差別、民族差別やさまざまな人権侵害の問題に目が向き、その不当性や非人間性について考える。これらを自らの問題意識を抱いて考え、差別や偏見を解消しようとする態度を身につけることができる。
4	部落差別の正しい認識と、部落差別をなくす実践的態度の育成	・戦後も厳しい部落差別が次々と起き、その差別解消に様々な人々が立ち上がってくる中で、差別解消を自分の課題として考えることができる。

No	主題名	ね ら い	時	資 料
1	重役会議①	意識調査に回答しながら、自分の意識や価値観について認識する。	1	調査用紙
2	重役会議②(参観授業)	生きて働く資質は、学力の他に、人とのコミュニケーション力や目的意識、協力する姿勢、まじめな学習姿勢など、様々なことが考えられることに気づく。	1	ワークショップ
3	共に生きる	中国残留邦人の人たちが、帰国後の生活の中で抱えている困難を知り、その解消の道筋を考えることを通して、地域の人たちがともに生きていく心情を育てる。 「誇り高き民族」に替える案もあります。	1	ビデオ 「共に生きる」
4	結婚差別を乗り越えて①	今もある部落差別の名残り、結婚差別の実際を知り、家族や親戚関係の中で何が問題点なのかを理解するとともに、自分自身も差別解消をめざして生きていこうとする決意を抱く。	2	DVD 「ドキュメンタリー結婚」
5	結婚差別を乗り越えて②			読解資料 「美穂さんの手紙」
6	まとめ	学んできたことを振り返り、これからの自分のあり方についての考えを標語にすることで人権に対する意識を実践につなげていく。	1	